

輸出事業計画

※申請者名：南九州食品輸出協議会、品目：漬物

1. 輸出における現状と課題

【輸出における現状】：宮崎・鹿児島は日本有数の干し大根産地で、協議会3社は令和6年度に米国・香港等8カ国へ5,425万円の輸出実績を持ちます。

生産者の高齢化に伴う担い手不足や、施設整備の不足、バイヤー依存のPR活動であり、能動的な販路拡大に向けた体制強化が急務です。また、米FDA規制、豪州の検疫、マレーシアのハラール認証など、各国特有の厳格な基準への継続的な対応も不可欠となっています。

【課題】

- ・日系スーパー中心のため販路が拡大できていない。
- ・日本の漬物の良さが伝えられていない。
- ・商品差別化や付加価値の伝達できていない。
- ・現地のニーズに合わせた商品の開発が不足している。

2. 輸出事業計画の取組内容

【販売面】

販路拡大：日系・高級スーパー中心の既存販路から、現地の一般スーパーや大手レストランチェーンへの展開を目指します。

販売促進：現地スタッフによるデモンストレーション販売や、バンコク日本博などの展示会への出展を通じて、漬物の多様な食べ方（サラダトッピングやタパス等）を提案し、認知度を高めます。

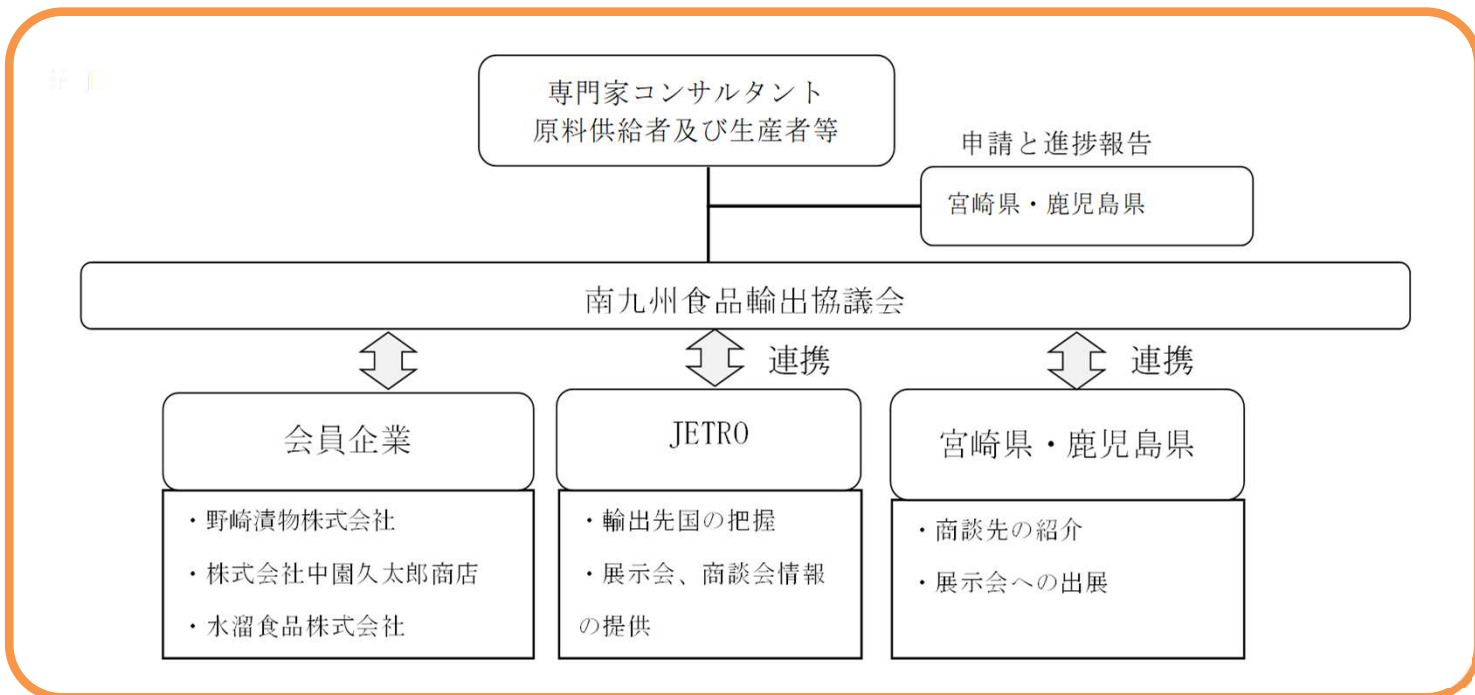
ブランド化：日本の伝統的な発酵食品としてのストーリーを伝え、付加価値を向上させることで、中～高所得層をターゲットとしたブランド構築を図ります。

商品開発：現地のニーズに合わせ、即食型の小分けパックやハラール対応商品の導入を検討し、市場適合性を高めます。

輸出事業計画

※申請者名：南九州食品輸出協議会、品目：漬物

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和6年度）	目標年（令和9年度）
輸出額(万円)	5,425	27,129
輸出量 (t)	34.5	172.2
輸出先国	米国、カナダ、タイ、オーストラリア、台湾、香港、スペイン、マレーシア	米国、カナダ、タイ、オーストラリア、台湾、香港、スペイン、マレーシア